

●教育環境の充実

夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちを育成するため、一人ひとりに応じたきめ細かな教育と安全で快適な教育環境の整備を進めます。

今月中に、全児童生徒1人1台のタブレットパソコンの導入が完了し、来年度は、これを活用した授業を行うため、「(仮称)ICT実践事例集」を作成します。ICT支援員を14人から28人に倍増し、教員のサポート体制を強化します。

増加する不登校児童・生徒への支援を充実します。来月、新たに上石神井駅近くに適応指導教室を開設するとともに、来年度からの2カ年で実態調査を行います。

小中学校のうち、既に工事や設計に着手している6校では、起債の活用等により改築を進めます。また、体育館空調の整備は11校で実施します。

国は、小学2年生から6年生までの学級編制基準を、来年度から段階的に35人とする方針を決定しました。2年生では既に実施済みですが、対象学年の順次拡大に向けて、教員の確保や普通教室の増設等に適切に対応していきます。

高年齢者施策

団塊世代の全てが後期高齢者となる令和7年に向けて、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的、継続的に提供される地域包括ケアシステムを確立しなければなりません。

●高齢者みんな健康プロジェクトの推進

法改正により、区が保有する医療・健診・介護等のデータを横断的に利用出来るようになりました。これを積極的に活用して、課題を抱えた高齢者を抽出し、一人ひとりへの支援に繋げる「高齢者みんな健康プロジェクト」に着手します。新たに、管理栄養士等の、高齢者保健指導専門員と地域包括支援センターが連携して、糖尿病重症化予防、フレイル予防、ひとり暮らし高齢者等訪問支援など、総合的な取組みを全国に先駆けて開始します。

糖尿病重症化予防では、健診結果等から見て重症化リスクの高い後期高齢者の方への訪問相談を実施します。医療機関受診のほか、栄養士や地域ボランティアによる栄養講座への参加を促し、生活習慣の改善に繋がります。

フレイル予防では、身体機能低下の傾向が見られる方を対象に、訪問相談を実施します。また、訪問相談後もフレイル予防に継続して取り組めるよう、30カ所に拡充する街かどケアカフェで健康教室などを開催します。

ひとり暮らし高齢者等訪問支援では、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の方で、健診の情報無く、健康状態が不明な方を訪問し、介護予防事業など必要な支援に繋がります。

地域包括ケアシステムの確立には、在宅医療との連携も不可欠です。本年4月、「医療連携・在宅医療サポートセンター」を練馬区医師会に開設します。地域包括支援センターと連携して、病院から在宅療養へ移行する際の訪問診療医の紹介や一時入院の調整などに取り組めます。

●認知症対策の充実

認知症を早期に発見・診断するため、医師会と連携して10月から、70歳と75歳の方を対象に「もの忘れ検診」を開始します。地域包括支援センターが専門医への受診や介護予防事業等の利用を支援します。

認知症発症要因の1つと言われている難聴対策として、65歳以上の住民税非課税世帯の方で、専門医により必要性が認められた方に補聴器購入費用を助成します。

●特別養護老人ホームの整備

既に施設数が都内最多である特別養護老人ホームは、来年度2施設を開設、1施設を増床し、定員を177人増の2,422人とします。令和7年に向けて、4年度以降は、4施設の整備、1施設の増床により、定員を2,878人とします。



昨年開設した特別養護老人ホーム「あおぞら緑 小竹テラス」

福祉・医療施策**●障害者のライフステージに応じたサービスの提供**

障害者が住み慣れた地域で自立して暮らし続けるためには、障害特性に応じたきめ細やかな支援が必要です。

先月から、重度訪問介護利用者の大学等の修学支援事業を開始し、新たに通学時や大学などでの身体介護を提供しています。また4月から、外出が困難な精神障害1級の方を、福祉タクシー事業及び自動車燃料費助成事業の支給対象とします。

共生社会を実現するには、聴覚障害や視覚障害など、個々の特性に応じた多様なコミュニケーション手段を充実することが必要であり、「(仮称)障害者の意思疎通に関する条例」の検討に着手します。

●ひとり親家庭自立支援プロジェクトの充実

貧困率が相対的に高いひとり親家庭の自立を支援するため、平成29年度に、生活・就労・子育ての3つの支援を組み合わせ提供する「ひとり親家庭自立支援プロジェクト」を開始しました。自立支援プログラムや訪問型学習支援など、23区で最も多くの事業を実施しています。

ひとり親家庭は、養育費の未払いにより生活が不安定になる事例が多くあります。養育費の取り決めに関するパンフレット、弁護士による法律相談に加えて、来年度から、養育費の確保に向けて、公正証書の作成費用や調停申し立て及び裁判に必要な収入印紙代等の助成を開始します。

●住まい確保支援策の充実

来年度から、住まい確保支援事業を充実します。精神障害者や高齢者などを対象に、物件の見学や契約へ同行して住まいを探し、入居後も状況を確認して福祉サービスに繋ぐ、「伴走型支援」を実施します。

●医療環境の整備

順天堂練馬病院は4月にリニューアルオープン予定です。病床が90床増えるほか、心臓血管外科の新設やNICUなどの増設により救急医療及び周産期医療等の医療機能が充実します。

高野台新病院の整備、練馬光が丘病院の移転改築工事は、4年度の開院に向け順調に進んでいます。

練馬光が丘病院の跡施設を活用し、医療・介護の複合施設として、7年4月の開設を目指します。医療分野では、地域包括ケア病棟や区内には無かった緩和ケア病床を有する157床の病院を、介護分野では、医療機能と生活施設機能を兼ね備えた区内初の介護医療院に加えて、介護福祉士養成施設を整備する予定です。

これらが実現すると、私の就任時約1,800床だった病床が2,800床を超え、約1,000床の増床となります。

まちづくり、環境施策**●災害に強いまちづくり**

地域ごとのリスクに応じた攻めの防災を推進し、安全なまちの実現に向けた取り組みを進めます。

建築物の更なる耐震化に向け、今年度末に練馬区耐震改修促進計画を改定します。

特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化は96%まで進み、今後は、一般緊急輸送道路沿道建築物の耐震化に重点的に取り組めます。戸建住宅については、来年度から助成率や助成限度額を拡充し、一層の耐震化を促進します。

貫井・富士見台地区に続き、桜台地区において来年度中の密集事業の着手を目指します。地

域の皆様とともにまちづくり計画を策定し、密集事業の整備計画を検討していきます。

区独自の防災まちづくり推進地区に指定した田柄、富士見台駅南側、下石神井の3地区で、今年度内を目途に路線指定する避難路沿道での危険なブロック塀等の撤去、狭あい道路の拡幅を進めます。老朽木造家屋の除却を促進するとともに、建替え時における不燃化を進めるため、都条例に基づく「新たな防火規制」の区域指定を検討していきます。

●都市インフラ整備とまちづくり

新型コロナウイルスの感染拡大により、鉄道の利用者数や利用時間帯に変化が見られますが、大江戸線の延伸は、区北西部に残された、23区でも数少ない鉄道空白地域の解消と、区の今後の発展に不可欠であり、必ず実現しなければならない事業です。

駅やトンネルの構造、車両の留置施設など、延伸に必要な具体的な事項について、引き続き都と連携して協議を進め、早期実現に向けて積極的に取り組んでいきます。延伸地域では、来年度、大泉学園町地区において地区計画の都市計画決定を目指すとともに、新駅周辺の駅前広場整備、商業施設等の立地誘導策の検討を行います。大泉町2丁目地区においても、地区計画策定に向けて、地域の皆様と検討を進めます。

西武新宿線の連続立体交差事業については、昨年10月に側道及び駅前広場の計画と合わせて、都市計画案の説明会を開催しました。今後も都や沿線区市と連携し、来年度の都市計画決定に向けて手続きを進めます。武蔵関駅周辺では、都市計画道路補助230号線の事業認可取得に向けた測量を実施します。

連続立体交差事業の進捗に合わせて、沿線各駅周辺では地区計画や建物の共同化について地域の皆様と協議を進めます。

石神井公園駅南口西地区市街地再開発事業については、昨年12月に、市街地再開発事業等の都市計画を決定しました。来年度中の事業認可取得に向け、再開準備組合の事業計画作成を支援します。区は、再開事業に合わせた都市計画道路補助232号線の事業認可取得を目指して測量及び設計を実施し、商店街通りの無電柱化と並行して街並み整備の検討を進めます。

●特色ある公園づくり

白子川の源流部に位置する約5ヘクタールの大泉井頭公園は「水辺空間の創出」、約4km下流に位置する約10ヘクタールの稲荷山公園は「武蔵野の面影」をテーマに、みどりの拠点づくりを進める長期プロジェクトとして、検討を進めている都市計画公園です。多くの区民に親しまれ、23区唯一の大規模なカタクリ群生地など、希少な自然に恵まれた稲荷山公園は、基本計画を来年度策定します。今月、素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を伺っていきます(4面参照)。

「第15回みどり香るまちづくり企画コンテスト」の最高位、環境大臣賞の受賞が決定した四季の香ローズガーデンを、5月1日に開園します。大きく拡張したバラ園の整備には、みどりの葉っぱ基金・ローズガーデンプロジェクトの寄付金を活用させて頂きました。「四季の香」と命名された新品種をはじめ、約140種のバラが織りなす色彩のグラデーションが、来園者をお迎えします。

大泉学園町希望が丘公園は、区立公園初となる300㎡の屋根付広場、子どもたちが遊べる遊戯広場、幅広い世代の方々が利用出来る多目的広場などを備えた公園として拡張整備し、秋の開園を目指します。

都は、練馬城址公園の整備計画を公園審議会に諮問していましたが、先月、中間のまとめが公表され、パブリックコメントを実施しています。引き続き、区民の皆様に対する丁寧な説明を都に要望するとともに、区の求める公園機能の実現に向けて協議していきます。

●環境施策の推進

国は、昨年10月、2050年までに温室効果ガ